

平成23年度 学 校 経 営

1 経営基本方針

教育における不易流行を大切にし、教職員の資質・能力の向上を図りながら、家庭・地域社会と連携し、生徒一人一人に「生きる力」を身に付けさせるとともに、質実で剛健な校風の確立と信頼される学校づくりを目指す。

2 校訓

自学 誠実 克己

3 学校教育目標<目指す生徒像>

自ら学び 正しい判断のできる 優しく元気な生徒

4 学校経営の方針

☆ 学校課題研究長期推進計画テーマ

「未来を拓く活力ある人間の育成」

<目指す学校像>

- (1) 本校のよき伝統と校風を発展させ、知・徳・体の調和のとれた教育を推進することにより保護者や地域社会の信頼と期待に応えるとともに、生徒が本校で学ぶことを誇りに感じることができるよう学校づくりに努める。
(「環境が人をつくる。 その環境を人がつくる。」)

<目指す教師像>

- (2) 一人一人が資質と能力の向上に努めながら、使命感と慈愛の心をもって、生徒とともに汗を流し、感動を共有することができる教職員集団作りを目指す。
(「教育は人なり」)

<指導の基調>

- (3) 生徒の「自分探しの旅を助ける」という視点に立ち、一人一人の「よさ」を認め・励まし・伸ばすことによって生き生きと学校生活を送ることができるよう、温かい援助・指導に徹する。
(「君子成美」)

☆ 中期的目標

<知性を磨く>

- (4) 「生徒の成就感・達成感」を大切にしながら「分かる授業」を実践し、生徒の学ぶ意欲や態度、学習習慣の形成を図る。また、基礎的基本的な知識・技能の定着やそれらを活用する能力の育成に努め、生徒に「確かな学力」を身に付けさせる。

<心を耕す>

- (5) 自他の生命や人権を尊重する教育の充実を図るとともに、集団や社会の一員としての適切な生き方を身に付けさせる指導の充実を図る。特に、勤労を尊び奉仕する心や正義を重んじ他人を思いやる心、我が国の文化や伝統および郷土や自然を愛する心などの育成に努める。

<心身を鍛える>

- (6) 運動に親しみ、積極的に体を鍛えるとともに、何事にも粘り強く努力し、自らの健康安全の保持・増進に努めることのできる生徒の育成を図る。

<今日的な教育的課題>

- (7) 生徒理解に基づいた積極的な生徒指導を進めるとともに、いじめや不登校の問題については、全教職員が早期発見・予防に努め、組織的に対応する。また、国際理解教育、情報マルチメディア教育、環境教育、福祉教育及びキャリア教育に重点をおいた教育課程の編成と実施に努める。

<家庭・地域社会との連携>

- (8) 授業参観や学校公開及び適切な情報の提供に努めることにより「開かれた学校」づくりを目指す。また、地域の教育力を活用したり、生徒を地域の行事等に積極的に参加させたりして「地域の中に生きる学校」づくりを図る。

5 本年度の努力点

(1) 自学（学ぶ意欲の喚起と確かな学力の保証）

- ① 学ぶことの意義や学習目標を明確にした上で、分かる授業の推進に努める。また、繰り返しの指導により基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、場を設けてそれらを活用する能力の育成に努める。
- ② T Tの拡充・充実や少人数指導の推進により、興味・関心や習熟の程度に応じた指導の工夫を図り、一人一人の生徒が生き生きと学習できるようにする。
- ③ 授業に話し合いや発表する場を設けることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、自ら考える力や発表力・表現力の育成に努める。
- ④ 学習の連続性を大切にし、予習・復習等の適切な学習課題を工夫する。また、補充指導、家庭学習を通して自発的な学習習慣を身に付けさせる。

(2) 誠実（礼節の尊重と広い心の育成）

- ① 体験活動や各種行事を通じた道徳教育の充実を図る。特に、諸活動と道徳的価値の関連を明確にして規範意識の高揚や協調性・思いやりの心の育成など道徳教育の効果があがるようにする。
- ② けじめある生活態度の育成に意を注ぐとともに、遅刻防止やチャイム始業、下校時刻の遵守、5分前行動など「時間」を意識して行動できるようにする。
（「時を守る」）
- ③ 進んで身の回りの整理整頓や美化活動に取り組むことができるようにする。特に、「無言清掃」の定着を図る。
（「場を清める」）
- ④ 「いつでも・どこでも・だれにでも」明るく爽やかなあいさつができるようにする。また、時と場に応じた「正しい言葉」「美しい言葉」を用いることができるようにする。
（「礼を正す」）
- ⑤ 奉仕的体験活動を推進し、公共の福祉のために尽くそうとする態度の育成を図る。

(3) 克己（健全な心身の育成）

- ① 健康や安全に関する基本的な知識と理解の徹底に努め、自主的に健康管理のできる生徒の育成を図る。
- ② 体育の時間はもとより部活動等を通して、意図的・計画的にバランスのとれた体力づくりを推進する。特に、諸テスト項目においてその効果があがるように努める。
- ③ 個人差を考慮した上で、親しみのもてる「食に関する指導」や適切な給食指導の充実を図る。また、諸検診の結果を生かして、家庭と連携しながら各種疾病の予防と治療の推進を図る。
- ④ 心身の発達段階を考慮し、日常の指導はもとより関係機関との連携を図って「喫煙や薬物乱用防止」「性に関する指導」の充実及び交通安全教育の徹底を図る。

(4) 今日的な課題への適切な対応

- ① 温かくきめの細かい指導に徹し、様々な問題の早期発見や予防・解決に努めることなどにより家庭から信頼される学校の体制づくりを目指す。特に、不登校生徒の減少といじめの防止を目指す。
- ② 校内外における生徒の安全確保に努めるとともに、防犯意識の高揚などに積極的に取り組む。
- ③ 開かれた学校づくりに努め、適切な情報の提供、学校開放・授業参観、学校評議員制度・地域の教育力の活用及び生徒の地域行事への積極的な参加を図り、家庭・地域社会との連携をいっそう推進する。さらに、望ましい学校評価のあり方を追求する。

☆ 指導体制、教職員としての資質向上

- (1) 綱紀の保持と服務の厳正に努め、信頼される教職員集団作りに努める。また、指導にあたっては、共通理解・同一步調・一貫性に留意する。
- (2) 絶えず研究と修養に努め、指導力・授業力・教師力の向上を図る。

6 教員に求められる資質・能力

学校教育の成否は、その直接の担い手である教員の資質能力によるところが大きい。そのため、教員には教育者としての使命感、教育の理念や人間の成長・発達についての深い理解、生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的な知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とする実践的な指導力が求められる。

この実践的な指導力は、教科指導や生徒指導、学級経営などのあらゆる場面で発揮される教員の指導力であり、具体的には、次のような資質・能力を日々の実践活動を通じて形成していくことが肝要である。

(1) 児童生徒に対する教育的愛情と使命感

－人間的なあたたかみをもって、忍耐強く生徒を指導できる－

教員にとって必要なことの第一は教員という仕事に対する情熱である。その情熱とは、教育に対する使命感や誇りであり、また、生徒に対する愛情や責任感である。

学校という場所は、人と人がかかわり合う場である。生徒によっては、親よりも教員の方が長い時間を過ごす日さえある。教育には厳しさも必要だが、まずは生徒一人一人に対し共感的理解をもち、あたたかく接することが肝要である。また、生徒の成長を根気強く支える忍耐強さも必要である。

(2) 豊かな教養や専門的知識

－生徒に興味のあるわかりやすい指導ができる－

「教師は授業で勝負する」と言われるように、教育の専門家としての力量がなければ教員として子どもたちや保護者からの信頼は得られない。教育は行為であるので、その充実のためには生徒を理解する力や指導する力、集団指導の力、学級づくりの力など様々な力が必要となる。日頃からそのような力を磨く努力をするとともに、それらを支える豊かな教養や専門的知識を身に付けることが大切である。

(3) 健康、明るさ、そして豊かな人間性

－生徒と教員が共に学び、共に伸びることができる－

教育の仕事を進めて行くには心身共に健康であることが望まれる。健康であれば、明るく職務に取り組むことができる。生徒と共に笑ったり泣いたりすることができ、感動を共有することができる。

また、生徒たちの人間形成にかかわる者として、常識や教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力やコミュニケーション能力などの豊かな人間性を備えていることも大切なことである。生徒は教師の言葉だけでなく、なにげない仕草やふるまいからも学ぶのである。

～教職員の資質能力とは～

1 教職員に求められる資質・能力

学校教育の成否は、その直接の担い手である教職員の資質・能力によるところが大きい。そのため、教員には教育者としての使命感、教育の理念や人間の成長・発達についての深い理解、生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的な知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とする実践的な指導力が求められる。この実践的な指導力は、教科指導や生徒指導、学級経営などのあらゆる場面で発揮される教員の指導力であり、具体的には次のような資質・能力を日々の実践活動を通じて形成していくことが肝要である。

- (1) 生徒に対する教育的愛情と使命感
- (2) 豊かな教養や専門的な知識
- (3) 健康、明るさ、そして豊かな人間性

2 教師の姿として

- (1) 自分にきびしく、他人に優しい教師
- (2) 常に子どもと共にある教師
- (3) 明るく、はつらつとした教師

3 教職員の心がまえ

- (1) 愛情・・・親身になって関わり、子どものよさを認め、子どもを思う心の涵養
- (2) 健康・・・明るく、生き生きと教育活動に取り組む心身の健康の保持
- (3) 礼儀・・・あいさつは教職員から。教職員にふさわしい言動と服装
- (4) 実力・・・教わりたい、教わって良かったといわれる実力を備えた教師
- (5) 根性・・・子どもの変容を信じて指導する情熱と根気よく見守る心の醸成

4 明るい職場づくり

- (1) あいさつは人間関係づくりの基本。さわやかなあいさつを。
- (2) 笑顔は健康のもと、心にゆとりをもって。
- (3) 感謝の気持ちは、心から。心からの言葉かけで。
- (4) 規律は集団生活の基本。けじめをつけて自分にきびしく。
- (5) 計画は早めに、目標は明確に。
- (6) 実践こそ宝。率先垂範で。
- (7) 報告・連絡・相談は、忘れずに（ハウレンソウの実践）
- (8) 整理・整頓・ファイル化で。仕事は無駄なく能率的に。
- (9) 人それぞれの立場で創意と工夫を。そして理解と協力を。
- (10) 人みな教師、そして我が同士

◎ 子どもにとって、最大の教育条件は『教師である』～教育は人なり～

1 やってみせる教師になりたい

- (1) 力量のない教師は、よくしゃべる。
- (2) 普通の教師は、教え込もうとする。
- (3) 優れた教師は、やってみせる。
- (4) 最も優れた教師は、子どもの心に火をつける。

2 内省する3視点

- (1) 自分の目にとげはないか。
- (2) 自分の言葉にとげはないか。
- (3) 自分の気分にとげはないか。